

賢太郎 劇場にご招待 ⑤



『大喜利猿』『POTSUNEN～DROP』の舞台に行ったきり『Shine!～トゥインクル・コーポレーション 10周年記念イベント』『トゥインクルフェス』『POTSUNEN～トライアンフ』と見事な敗戦続きでやさぐれてしまいそうなときに、賢太郎のテレビが！！



2009年2月15日(日)

BS-hi 23:00～24:00

再放送

2009年2月22日(日)

BS-hi 17:00～18:00

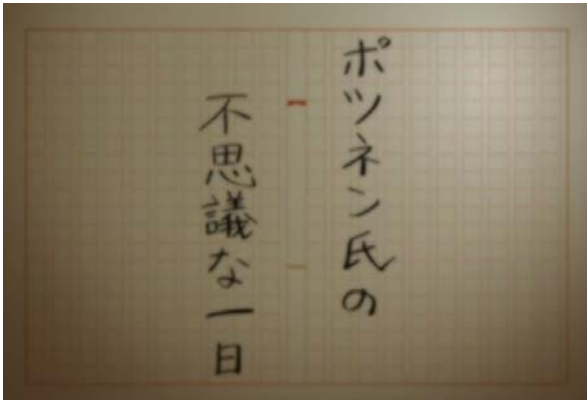


【面白さの可能性を求めてテレビでしか出来ない面白いこと】に挑戦した今回の賢太郎。コント集『ポツネン氏の不思議な一日』、メイキングドキュメンタリー、インタビュー、さらに番組からの挑戦に応えた書き下ろしコント。賢太郎がいっぱいの一時間。一人舞台のポツネンで今までやってきたことのダイジェストのようで、小林賢太郎の多才なところを少しずつ紹介した、思い切って言ってしまう賢太郎のひとり学芸会のような番組。ラーメンズとはまるで違い、くすりという笑い方が合っている舞台です。

→これは私が言ったのではありません。
NHKさんがこう表現したんです。



機関車が手に入る夢を見ながら原稿を書く器用なポツネン氏。やがて眼ざめ、一日が始まる――。



<ラジオ体操の自由な解釈>

ラジオでしか聞いたことのない人がするラジオ体操。
いつのまにか植えつけられているものを白紙に出来る感性。
人が疑いもしないことを疑ってみる。
その辺りが小林賢太郎のコントの在り方。面白さ。



↑「手をまわします」の運動で、
掌をまわしているところ



周り舞台が動いて
寝室からダイニングへ。
ここではお馴染みの<アナグラムのある風景>

「ぶどうぱん」が変化↓



ドキュメントの部分では仕事場が映ります。アイデアを黒板に書き、絵にして、必要ならば工作までする仕事場です。黒板、電ノコ、アラジンのストーブ…。昔の学校の理科室のよう。

【言葉にしてしまうとそれに縛られてしまうから、まず絵に描く事に留める】賢太郎は漫画家でもあります。

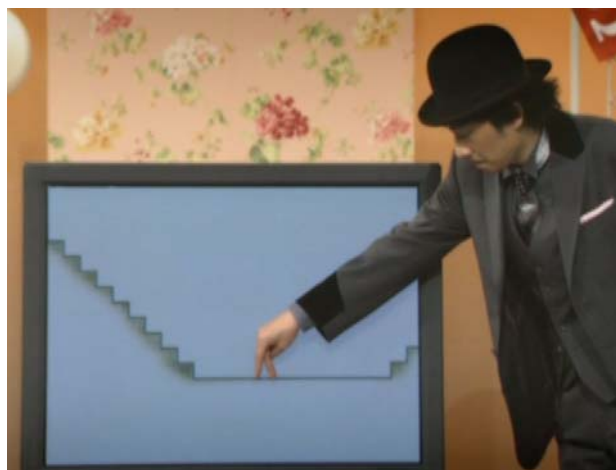
←シャツの釦を上まできちんとしめる35オ

<ショーウィンドウ>にて

スクリーンに投影された映像に合わせて演技をする「モーショングラフィック・アクト」→

賢太郎は、コントとの向き合い方について話をします。私はよく天才コント師なんて軽い表現をしてしまうけれど、本人は嫌いな言葉なのかもしれない。

【0. 1を10回して1にする】という地道で真摯な生き方をしてる人っていうのが本当のところなのかも。



<クロマキー> クロマキーという特定な色を透明にして別の映像を合成する技術で賢太郎がひとつの動きをして、その後背景を変えていくつかのパターンを作る。まだ賢太郎が面白がっている段階の実験的コントのようで、もう少し磨ける余地があったのでは。



<写真館にて>

ここでもクロマキーを使って最高32人の賢太郎が登場する。カメラマン役の竹井亮介とのコントはイマイチだけど、カメラマンの言葉を復唱するセンスが好き。

←ひとりぼしい…

車の中で、街の中で、ズーラシアで、賢太郎は面白いがる。

【みつけることはできる。それを面白がらないともったいない】

「手作りの店 越後谷豆腐店」というお店には、店が手作りですかとホコサキさんのツッコミ。「東京水泳協会」の看板を携帯で撮る。(重箱の隅をつつくようなツッコミやちょっと変わったものに反応するのは、まさしくケータイシャシンカンじゃないかっ！)

ズーラシアでは、子供が絵に描くのに困るタイプの ↓賢太郎を見つめるヤブイヌ。みょ〜に可愛いヤブイヌに惹かれ、馬に話しかける。

【面白いことを拾い集め、みつけてきたものを並べることはアートじゃない。

お金を払って買ってもらうものにまで磨き上げないと成立しない】

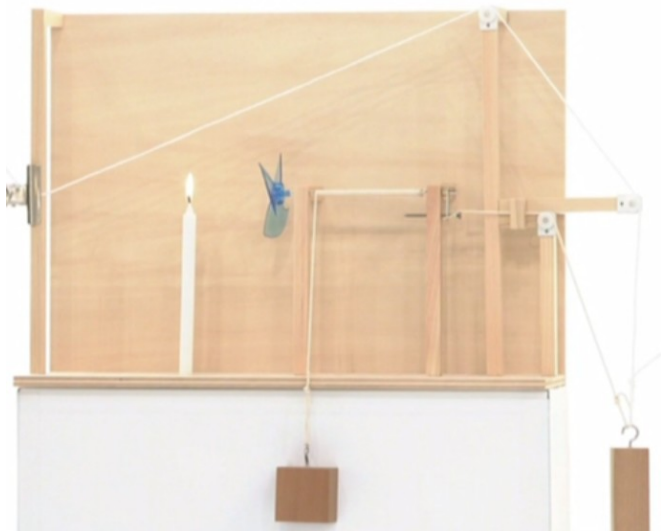
賢太郎のコント作りの基本。

面白いことに敏感なとこまでは私も一緒なんだけどねー。残念ながら私はアートしてないんだなー。



<腑に落ちない展>またここにも竹井亮介が出てきて今度は一人で喋り、賢太郎は「ほ〜ん」と二言しか発しない。レタリングで丁寧に書かれた「乱暴」、Yと胸に書いてあるTシャツ、なんでも溶かす魔法の液体が入っている瓶…腑に落ちないものの展覧会。

もっと数を少なくした方がよかったような。ラーメンズでは大事な“間”がここでは少し退屈に感じてしまった。賢太郎が無言で頷くところは好きなんだけど、そもそも竹井亮介は必要なのか、疑問。



←展覧会の作品のひとつ『つけたが最後』は、机上の空論で終わらない。

蠟燭に火を点ける→紐が切れる→重しが下がる→糸を巻く→風車が回る→火が消える　この工程があつという間。ほんとだっ！つけたが最後じゃない〜。

収録最終日に「テレビ」のお題を与えられる。

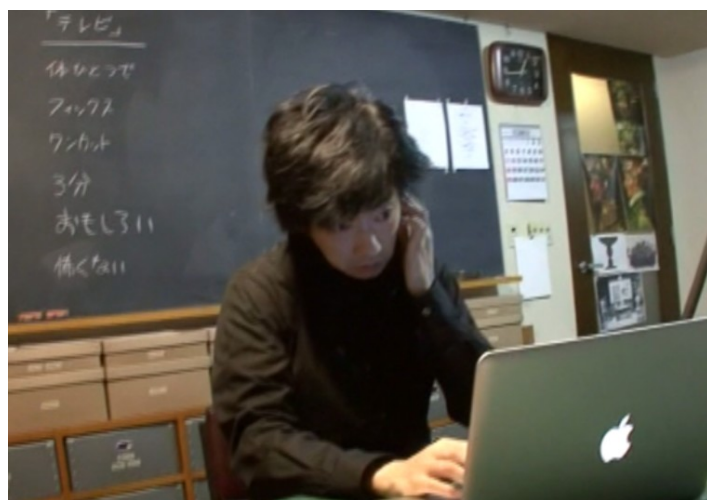
三日間で、セット・編集なし、

固定カメラ一台でコントを作る

番組からの挑戦に応えコント「セルフ・カット・ワーク」を苦しんで楽しんで作る。

この部屋にも、舞台にも飾ってあったアルチンボルドの絵を賢太郎はお気に入りのよう。

野菜が顔を形作っているとても気持ちの悪い絵で、唯一賢太郎と相いれないところ。



↑やっぱりMac使ってます。



最後はポツネン氏の部屋に戻り、繰り返される同じ文章で言葉遊びの<ループ>。

一日の終わり、机の上でふさって寝てしまうポツネン氏。すると夢でみたように機関車が部屋にやって来た——。ここが一番賢太郎らしかったけど、この説明も写真も載せないことにします。おちを晒したら【笑いに憧れっぱなし】の人に怒られそうだから。



さてさて今年は待望のラーメンズ本公演。みんなの力を借りて取った6月のグローブ座のプラチナチケット！！沢山驚かされ、沢山笑わされて来ます。

(この番組をDVDに落として送ってくれた yuko さん、special thanks ! ツス)